

# くしろ



ホームページ  
QRコード



## 『鶴居村農友会』の活動風景

解散の危機からはや数年……。現在は会員数22名の大所帯となりました！

農業者から人工授精師まで様々な業種の人が集っており、会員の獣医師を講師にした学習会の開催、人工授精師を中心としたプロジェクト活動など、特色を活かした活動を展開しています。これからも、普及センターでは農友会の活動を支援していきます！

	所在地	電話・FAX	Eメールアドレス
釧路農業改良 普及センター本所	〒088-2313 川上郡標茶町常盤8丁目5番地	Tel:015-485-2514 Fax:015-485-2249	kusirokita-nokai.11 @pref.hokkaido.lg.jp
釧路東部支所	〒088-1365 厚岸郡浜中町茶内橋北東31番地	Tel:0153-65-2021 Fax:0153-65-2037	kushiroto-nokai.11 @pref.hokkaido.lg.jp
釧路中西部支所	〒084-0917 釧路市大楽毛127番地	Tel:0154-57-8306 Fax:0154-57-4702	kushirochu-nokai.11 @pref.hokkaido.lg.jp

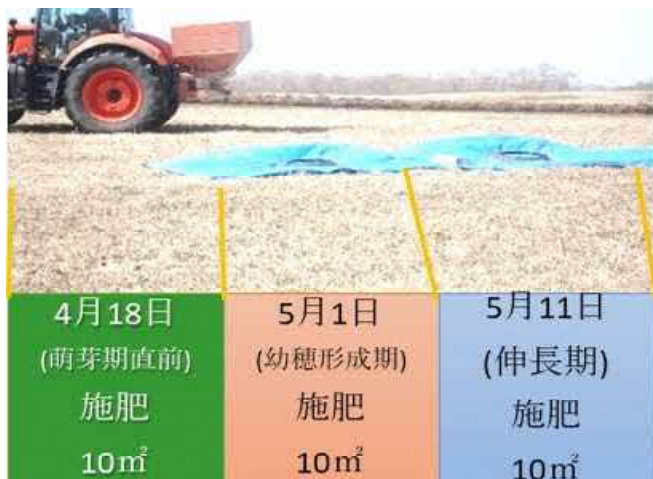
ホームページアドレス: <http://www.kushiro.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index.htm>

## 重点活動の紹介(東部支所)

### 早春施肥の時期と収量の関係を実証

「チモシーの1番草収量を確保するためには、萌芽期に施肥しましょう。」と言われていました。今年をこれを重点地域(厚岸町若松・糸魚沢)で検証しました。重点地域では、4割の農場で粗飼料が不足しており、牧草収量を高める取組を行ってきました。今回の検証はその一環で、収量が最も高まる施肥時期を確認することが目的です

4月18日の通常施肥時に、ブルーシートを使用して無施肥の部分をつくり(写真)、



実証用の設置

厚岸町の萌芽期10日後(5月1日)と20日後(5月11日)に施肥する区を設けました。

6月17日に収量調査したところ、4月18日施肥区は、5月1日と5月11日施肥区よりも多くの収量を確保できました(図)。地域の方々も、「施肥時期が遅れると収量にこれだけ差があるとわかった。」「適期の施肥が大事だ」と話されています。

釧路東部支所では、他地域にも広まるよう情報発信を進めていきます。

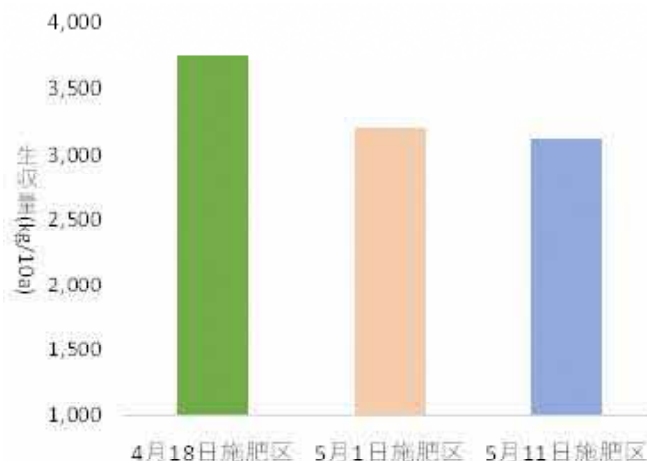


図 施肥時期別の生収量

## 地域の話(中西部支所)

### TMRセンター「トイピリカ始動」

合同会社トイピリカ(鶴居村支幌呂)は、この春に施設整備も終わり、1番草収穫、そして8月1日からTMR製造を開始しました。

最初は構成員の所に貯蔵していた前年産のサイレージを運搬してTMR製造を開始。製造開始前は「製造時間はどのくらいかかるのか?」「乾物率はどうやって測ろうか」「残飼や牛の状態の情報交換はどうしようか」などいろいろと悩みましたが、始めてみると順

調に進んでいます。

8月下旬から、今年調製した1番草サイレージを開封しましたが品質は安定していて、構成員も一安心でした。

これからは「いかに乾物摂取量上げるか」を目的にTMR品質の安定化、飼養環境の改善などに取り組んでいきます。

普及センターも、関係者の方と共に、TMRセンターの効率的な運営、構成員の経営向上を支援していきます。



きれいに整ったトイピリカ構内



構成員と関係者で1番草サイレージを開封



## 活動の紹介 牧草初冬播き技術の確立

牧草のフロストシーディングは昔からある技術ですが、翌春の発芽率や定着性が課題となっていました。しかし近年では草地更新事業が、お盆明けから初秋にかけて集中し過ぎる事が問題化し、フロストシーディング技術の活用を模索するため、普及員で研修を行ないました。

「フロスト」による草地更新では、播種期間は限定され、日平均気温が6℃以下が条件で、管内では11月中旬から12月初め頃（表

	完全更新	簡易更新
播種時期	日平均気温6℃以下。 3日間以上の一時昇温（平均7℃以上）が続かなくなる日。 根柢地域では、平年の土壌凍結の進行状況を勘案すると、11/15頃～12/上まで。	
草種選定	イネ科牧草主体。 チモシーは主体草種としての効果が見えやすい。 マメ科は低温下でも吸水性があり、発芽して枯死するため不適。翌春の追播が望ましい。	イネ科牧草主体。 チモシーに限らず、イタリアン、オーチャード、ベレニアルなども有り。 発芽勢のあるイタリアンやフェリストロリウムは効果実感度が高い。

表1 フロストシーディングによる手法概要①

土が数cm程度凍結する時期まで)としました。播種量は通常の更新より2～3割増しが必要です。また播種後と翌春には土と活着させるため、鎮圧作業が必要です。夏季更新では可能なマメ科同播は出来ず、翌春の追播で行います。また前植生の枯殺処理は必要ですが、簡易更新にも適用が可能です。

実施にあたっては、注意点もありますので、詳しくは普及センターへお問い合わせ下さい。

	完全更新	簡易更新
播種量	夏季更新時より2～3割増しで播種する。 2.3～2.5kg/10a。	完全更新に準ずる。
播種後の鎮圧	要鎮圧。 土壌水分高いと、鎮圧ローラーへの土や種子の付着に要注意。 ⇒ゴムローラーを使用。 早朝の放射冷却時を狙った鎮圧作業で対応。	プロキヤスによる播種の場合は、完全更新に準ずる。 作溝式播種機使用の場合は鎮圧不要。

表2 フロストシーディングによる手法概要②

## 釧路管内資料の紹介 酪農の基礎がわかる『釧路の酪農』

『釧路の酪農』は、修学旅行生を対象に酪農家の作業を分かりやすく紹介するための資料として、釧路地域農業技術支援会議が平成20年に作成しました。

作成から10年が経過し、機械などの画像や面積・頭数などのデータが古くなったため、若干の改訂を行いました。

「牛の種類」「牛の体のしくみ」「牛の一生」「牧場の1日」など酪農の基礎的な内容の他、「飼料作物の栽培」から「ファームステイ中

の注意点」まで幅広く記載されています。今回、新たに「酪農研修施設」や「新しく酪農を始めた人からの一言」も紹介されています。

最近では、新規就農者向けや人材確保のための説明資料としても活用されており、今後は従業員向けの資料としても使えるように改訂を検討しています。

詳しくは、釧路総合振興局農務課のHPをご覧ください。http://www.kushiro.pref.hokkaido.lg.jp/ss/num/rakunois.htm



R2年改訂しました



誌面の一部

暑い夏もあっという間に過ぎ去り、冬の準備が始まります。来る冬に向け、仔牛哺育管理の参考となる事例を紹介します。

標茶町のT牧場では、一直線の温風配送管を各ペンに分岐させ、全てのカーフペンに温風が行き渡るように工夫しています。また、従業員の情報共有を図るため、ホワイトボードによる個体管理を行い、丈夫な仔牛を育てる取組をしています

## 【温風暖房】



左右2本の温風配送管を並べ、別室のボイラーから温風を送風しています



赤外線ヒーターも併用しています  
丸い円盤は適正な温度・湿度を確認する物です(快適指数計)



2本の配管は、下が温風機からの送風用で、上が温風機の廃熱で暖まった処理室の空気を送る管



送風口が細くなっている  
ので風圧も十分  
夏は、送風のみで利用できます



各送風口にはコックを付け、使用に応じて開閉可能

導入コストは、  
20頭分で150万円

その他に灯油代がかかります

## 【管理ボード】



仔牛の番号、生年月日をホワイトボードで管理、情報共有

- 温風の導入により、風邪・死廃が減った  
増体が良くなった
- 赤外線と温風のW暖房により、コストに見合う効果がある
- 管理ボードで管理が楽になった



※導入に当たっては、室内を暖めすぎないようにしましょう！  
～アンモニア等が揮発して気管支を痛めることもあります  
～マイナス気温にならない程度が良いと言われています